

令和7年度 学校評価報告書 (自己評価書・学校関係者評価書)

令和8年2月24日作成

中期目標	重点努力目標 (評価項目)		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
安心・安全な学校づくり 認め合う人間関係づくりと健やかな心と体づく	危機管理と迅速な対応	自然災害、熱中症・感染症、交通安全、校内施設の整備等に迅速に対応する。教職員全員へ危機管理意識を高揚させ、実効性のあるシミュレーションや避難訓練を実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブスルー訓練や避難訓練を計画的に行うことができた。また宿泊行事の打合せ時に、対応手順を確認したことで迷わず対応できた。 ・児童間の「よいところ見つけ」や教員間の「ありがとうカード」などを通して、子どもも教職員も、互いに認め合い、美点を見つめる姿勢を身につけることができた。 ・生活サポート情報交換会で、気になる子の様子を共通理解し対応を考え、関係機関につなげることができた。 ・一人一人が役割を持ち活動できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・通学班の編成を考慮した結果、とてもよい表情で登校するようになった。 ・運動会や発表会等の行事で、先生方が子どものモチベーションを保ちながら支えてくれたる事が、子どもたちの表情からうかがえる。 ・ネッククーラーを冷やすための冷蔵庫設置はありがたいかった。冷水器が充実するとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学班編成の検討が登校時の安心感につながったことを踏まえ、登校の状況把握を継続し、安全かつ心理的負担の少ない環境を維持していく。 ・冷凍庫設置等の熱中症対策は評価された一方、冷水器の増設・整備が要望として挙がったため、設備面の充実を予算の状況を踏まえながら検討していく。 ・行事での活躍を支える指導を継続し、主体性と心身の健康を両立させる体制を作っていく。
	自己肯定感を高め合う活動の充実	美点を見つめる目を子ども・教職員が持ち、相互評価を行う。互いの良さを認め合える場を持ち、自己肯定感を高め合う。	A					
	心身の健康状態の把握	生活を振り返ったり運動を楽しんだりしながら、心身の健康の向上をめざす子どもを育てる。体育授業、メディアチャレンジ、学校保健委員会、生活サポート委員会などを機能させる。	A					
	主体性を育む特別活動の創造	子どもが輝く特別活動の計画・実践する学校行事・委員会活動・学年集会・学級活動において活躍の場を保证する。	A					
基礎・基本の定着、子どもの思いを大切に た問題解決的な学習、心の教育を進める	自ら学ぶ意欲を引き出す支援の充実	子ども一人一人が目的や目標をもち「読む」「書く」「考える」「伝える・聞く」という行動に意欲的に取り組む。「むずかしいことをやさしく、やさしいことをおもしろく、おもしろいことを深く」学べるよう支援する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や ICT 機器利用の工夫、基礎・基本的な学習の繰り返しなどを通して授業改善の成果が表れてきている。 ・一人一人が主体的に学ぶ問題解決的な学習の実践を旨として、教科ごとの授業づくりをベテラン教員に学ぶ研修を行った。 ・心を育てる道徳の授業では、自我関与や役割演技などを積極的に取り入れて学びが深まるよう努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・よく授業に集中している様子が見られた。 ・子どもたちの興味がある ICT 機器を使った発表や授業が意欲的に取り組む姿勢につながっていると思う。 ・自分から役割を担おうとする、自主性が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを「楽しく使う」から、自分の考えを深めるための「道具」として使いこなせるよう、授業の工夫を続けていく。 ・教員同士で教え合い、子どもたちが「やってみよう」と実感を持って学べるような、おもしろくて深い授業づくりに取り組んでいく。 ・一人一人が活躍できる場面を増やすことで、「自分は大切な存在だ」と思える心を育てていく。
	学習・生活規律の徹底と個に応じた支援	子どもの思いを大切に問題解決的な学習の実践。切実感のある単元を構想し、体験的な活動や伝え合う活動を取り入れた問題解決的な学習を実践する。	B					
	心の教育の推進	心の教育に努め、生きて働く知識や道徳的実践力を高める。道徳の授業を中心として、思いやりと自己有用感を感じられる授業を展開する。	B					
力のある教師づくり 教職員が切磋琢磨し、地域から信頼される学校に	授業力の向上	常にチャレンジマインドをもつ。研修を重ね、個の輝く授業実践に邁進する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会を通して、全職員が授業について考え、話し合うことで学ぶことができた。 ・学年会等で、若手教員が、ベテラン教員に学級経営や子どもや保護者との関わり方を学び、力量向上を図ることができた。 ・行事検討委員会を4回以上行い、来年度に向けての改善に努めた。 ・不祥事防止の研修を機会あるごとに行い、抑止に力を入れた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会は工夫されていて、短い時間でよくまとめられた内容であった。 ・先生と遊んだことや褒められた事を、子どもたちは案外覚えていてうれしそうに話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は学習発表会が1月に移るため、生み出された時間を活かして内容をさらに深めて表現できる場を目指していく。 ・子どもが喜ぶ「褒める・遊ぶ」関わりを大切に、教職員同士も相談し合える温かい組織を目指していく。 ・行事検討委員会の案を実行に移し、準備の効率化と内容の充実を両立させ、よりよい職場環境を整えていく。
	組織力の向上	「チーム岩西」の組織力アップに貢献する。相談や相互評価を行い、教職員一人一人の自己肯定感を高める。	A					
	働きがいのある職場環境の構築	働きがい改革に向けて、教職員で話し合う。	B					
	高い倫理観と職責の全う	不祥事撲滅を自分事ととらえ、責任をもって職務を果たす	A					
「あたたかい校区づくり」 「もっとずっと大好きな岩西」をキャッチフレーズに	地域と歩む豊かな心の育成	地域の方々とも気持ちのよい挨拶や返事をし、校区に貢献できることを考えられるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の必要性を、朝会や学級で考える機会を設けたり、朝の交通立番や普段の生活で教師から挨拶をしたりするなどして啓発に努めている。 ・教育活動のニーズに応じた適切なタイミングでのボランティア募集と、それに対する円滑な協力体制が確立されてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「おはようございます。」の声が出ない子がいる。根気よく声かけを続けていかなければならない。 ・地域のひとと協力をし立ち番などを行えるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者の実感と、教師側が求める挨拶の基準に乖離が見られる。改めて挨拶の意義を指導し、自発的な行動を促す支援が必要である。 ・i ボランティアによる校外活動の見守り、出前授業の参観などの機会を適切に提供することで、家庭・地域との連携のさらなる充実を努めていく。
	地域資源を活用した学びの深化	地域教材の開発や TNP の推進、i ボラの協力などにより、地域の人・もの・ことを知り、学び、好きになる。	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】